

# 伊丹市商工業振興委員会 第1回商業部会 議事録

日時：平成27年7月24日（金）17：00～

場所：伊丹アイフォニックホール1階小ホール1

## 1. 開 会

## 2. 都市活力部長あいさつ

## 3. 部会長の選出について

田中委員を部会長に選出することに決定。

## 4. 部会長あいさつ

## 5. 議題

### (1) 伊丹市内商業の現状説明 … 事務局より資料に基づき説明

■市民意識調査結果（商業部分抜粋）速報値

■商業者アンケート結果（中心市街地・中心市街地以外）速報値

■平成26年度伊丹市内商店街活性化ビジョン

### (2) 課題の抽出・整理 … 事務局より資料に基づき説明

■商店街等の現状分析

<主な意見>

・商店会の数が少ない。特に荒牧や新伊丹駅、稲野駅周辺。伊丹全域を良くするためには商店会空白地域に商店会を作ることが活性化の足掛かりであると思う。

・中心商業と周辺商業の役割は重なる部分もあり別の部分もある。モビリティが高いため周辺にも目的性をもって他市から来客があると思う。特に周辺商業はそれに合わせて例えば駐車場を完備するなどの対策が必要。

・中心市街地の内容は中心市街地活性化協議会で議論するというのでいいのか。

→どちらかと言えば、中活はイベントやハード事業がメインとなっているため、商業関係のテーマについては本委員会で議論させていただき、その意見を中心市街地活性化基本計画(以下、中活)に反映させていただく。

・中活はミクロな考え方で、具体的な事業施策を検討されているようだが、本委員会では中心市街地の場合には上位に立った政策提言を考えていけばいいのか。体系が分かりにくい。

→方向性や大きな目標については産業振興ビジョンに位置付ける。具体的な事業については中活にも反映させていただく。

・本委員会ではどちらかというと郊外店舗を主に検討していけばいいのか。

→中心市街地と郊外店舗で同じ課題を抱えている場合については、併せて議論が必要であると考えている。中活は市全域の商業を活性化させる計画ではないので、市全域の商業施策を本委員会で議論していく必要がある。

・商店街活性化ビジョンを作った経緯について、中心市街地は市の施策によりそれなりの成果が出ているが、市全域を見た時に、若い世代が育っていない、或いは中心市街地はまとまりがいいが、郊外店舗ではやる気のある人をすくい上げる環境にないといった課題がある。若い世代にやる気を出してもらうために商連で青年部を設立し、周辺も含めた活性化のために商連から依頼を受けて作成した。

### (3) 解決・対応策の検討 …事務局より資料に基づき説明

#### ■ビジョン基本目標2 検討資料

#### ■伊丹市中心市街地活性化基本計画事業進捗状況

##### <主な意見>

- ・中心市街地はここ数年で活性化した。しかしそれ以外の地域では…。活性化の差がある。周辺の活性化による全体的なボトムアップを図ることが大事ではないか。
- ・考え方は2つあって、1つは活性化した中心が周辺を引っ張る。もう1つは個店支援や商店会組織化を考えて様々な施策を打っていき、周辺のボトムアップにより全体を活性化させる。伊丹にはどちらの方法が合っているか。
- ・GreenJam を企画している商連青年部に息子が理事として加入しているが、そうした繋がりで中心から声をかけてもらい出店した。郊外店舗も努力が必要だが、そうして中心市街地から声をかけてもらえればありがたい。郊外店舗から見ると中心市街地は別物という感覚であったが、中心市街地と郊外店舗の交流も深まりつつある。
- ・市外から人を呼び込めるような仕掛けが必要。バラ公園やスカイパーク等、中心だけでなく周辺部にも観光資源はあり賑わっている。活用できるものは活用すべき。外に開かれたまちであるべき。
- ・鴻池商工会は自治会等地元とのつながりが強い。地域との繋がり、交流が大切。
- ・どれだけ地域と繋がっているかで売り上げが変わる。地域とケンカして生き残れる商売人はいない。行政の施策にも商業だけでなく、地域と一体化することを支援するような施策があればいい。地域に生きることは大切。

- ・伊丹の歴史、文化と関連した商業のイベントを実施すべき。
- ・消費者として買い物しやすいまちというのは必須条件。近くにあっても大型商業施設は広くて高齢者は回れない。身近なお店が高齢者には必要。中心市街地にはたくさん店があるが、また行きたいと思えるようなお店が果たしていくつあるか。宅配などのサービスの充実も大切。
- ・バルをはじめ、これまで若者向けのイベントが伊丹には多かったが、質や価格など日常の中で満足できるようなお店が必要。
- ・伊丹ならではのというと、やはり酒、空港が思い浮かぶ。人が遊びにきた時にパッと出せるようなものの商品開発。キーワードとしては「交流」「共有」。それぞれの地域の特徴、固有の資源を知り自分たちの商業地域を知ってもらう努力が必要。そうして地域の生産物等、資源を活用した商品開発ということまでもっていければいい。そうした商品開発に対する補助があっても良いと思う。中心市街地の特定誘致がひと段落したようであるが、それ以外の商業集積地を支援する必要があるのではないか。商店街活性化補助制度についても使いやすいように見直す必要がある。
- ・商業者だけでなく地域の人たちも昆陽池に集まって、それぞれの地域の良い物を出し合っ  
てPR するなど、商業者同士、地域との交流も必要。最終的には他市の人から伊丹に住  
みたいと思われるまちになるのが最高のまち。歳をとっても安心して暮らせるまち、女性ひとり  
でも食べに行けるまち、夜遅くに歩いていても安心なまち、といった産業施策とは違ったもの  
もあるが、伊丹の将来像を考えた時に「安心」というのは大きなキーワードになると思う。
- ・個店支援として、商店会として成立しにくいところの救い上げが必要。
- ・住民と同様に商業者も高齢化している。個店がみんなやめてしまったら大型店が残ってい  
るからいいという話ではない。一定程度の個人経営者がいるから大型店も競争して頑張る。  
伊丹市域に新しい商業者を呼び込む、生み出すことを考えていかないといけない。ところが  
行政は個別の店舗に対してお金をいれることは難しい。個店がたくさんあれば市民にとっ  
てはそれだけ選択肢が増える。その選択肢を持っている地域と持っていない地域、伊丹はど  
ちらを目指すべきか。行政は民事不介入と言って個別の商業者に力を入れないところが多  
い。最後は商店街ではなく個々の魅力あるお店が重要となってくる。そういうお店が3軒でも  
5軒でもあれば人はそこへ行く。個々のお店の魅力を高める、プロになってもらう、質を高め  
ることが大事で、市民のレベルが高ければ高いほど高い商業を要求する。そういう意味では  
伊丹の商業者は一方では勉強する必要がある。集団を組むだけ、組織化だけでは問題は  
解決しない。最後は強い店が10軒あるところが強い。もたれ合いが10軒あっても意味が無

い。行政ももっと個店支援に力を入れるべき。他市では出来ていないが先進的に伊丹でやってほしい。

6. その他

次回スケジュール

9月下旬～10月上旬で日程調整させていただく。

7. 閉会